フレッド・カブリ氏（1927－2013）を悼む

大栗博司 おおぐり・ひろし
Kavli IPMU主任研究員

Credit: Dan Dry; Photo Courtesy of The Kavli Foundation

2013年11月21日に、カブリ財団の創設者で会長のフレッド・カブリ氏が亡くなったという悲しい知らせを受け取りました。86歳でした。カブリ氏は基礎科学の支援に大きな業績を残されました。

カブリ氏はノルウェーの小さな村エレスフィヨルドの農園に育ちました。ノルウェー工科大学（現在ノルウェー科学技術大学）で物理学を修めた後、米国に移住して、カブリコ株式会社を設立し、航空、自動車、各種産業の検知器の世界最大の製造業者に育て上げました。同社の製品は、ロッキードの戦略偵察機SR-71「ブラックバード」やスペースシャトルにも使われました。

2000年に経営から退き、人類全体のために科学を振興し、科学研究の一般の理解を高め、科学者とその研究を支援するために、持ち株を譲渡した利益を投じて、カブリ財団を立ち上げました。カブリ財団は、これまでに17のカブリ科学研究所と7つのカブリ教授職を設立し、シンポジウムやワークショップ、科学アウトリーチなど様々な活動を行っています。また、ノルウェー科学人文アカデミーとノルウェー文部省と共同で、2008年にカブリ賞を創設しました。天文物理学、ナノ科学、神経科学の3分野の顕著な功績が、カブリ財団と独立した委員会によって選ばれ、2年毎に授与されています。

カブリ氏はアメリカ芸術科学アカデミーのフェロー、ノルウェー科学技術アカデミーの会員、米国大統領科学技術諮問委員会の委員でもありました。また、ノルウェー有功勲章を受章し、ノルウェー科学技術大学、ノースウェスタン大学、オスロ大学から名誉博士号を授与されています。2011年には、米国最古の科学教育機関であるフランクリン・インスティテュートからボウワー賞を、また慈善活動のノーベル賞とも呼ばれるカーネギー慈善賞を受賞しています。

私は、カリフォルニア工科大学初代フレッド・カブリ教授として、またカブリ数物連携宇宙研究機構（Kavli IPMU）の主任研究員として、カブリ氏の科学支援のビジョンを遂行する立場にあったことを、光栄に思います。カブリ氏の科学への情熱は心に通じるものがありました。私は、2012年のカブリ賞授賞式でのカブリ氏のスピーチをよく憶えています。宇宙物理学、ナノサイエンス、神経科学の各々の分野の最近の発展を自身の興味に沿って語り、純粋な好奇心に駆られた基礎研究の重要性を情熱を持って訴える、力強いスピーチでした。

IPMUは2012年2月からカブリ研究所のネットワークに加わり、カブリ数物連携宇宙研究機構（カブリIPMU）となりました。これに伴い、カブリ財団からの寄付による基金が設立され、その配当金により研究が助成される仕組みになりました。IPMUは、文部科学省の世

界トップレベル研究拠点プログラム（WPIプログラム）によって10年間という時限付きで設立された研究所ですが、カブリ基金による恒久的な支援により、時限終了後も活動を継続させる基盤ができたのです。

2012年5月に開かれたカブリIPMU記念式典でのカブリ氏のスピーチの一部を、和訳して掲載します。

「私は、地球の反対側にあるノルウェー西部の高い山に囲まれた緑の谷間に育ちました。雷や稲妻が山から山に伝わり、谷を揺るがすときには、自然の力と美しさを感じたものです。オーロラが踊りながら空を横切り、白く雪に包まれた山々に降りていくときには、全天が燃えるように輝きました。雪山の静寂と孤独の中では、天の川銀河や星たちがくっきりと見え、宇宙の大きさ—想像を超える大きさ—を感じました。私は、宇宙、惑星、自然、そして人間の不思議を考えました。そして、今でも考え続けています。」

「ノルウェーの雪山からは長い道のりでした。ノルウェー工科大学で物理学を学んだ後、アメリカに来て南カリフォルニアに落ち着き、ビジネスの世界で多くの経験をしました。」

「そして今、私の興味は大きな円を描いて元のところ—宇宙—に戻ってきました。その最も小さな構成要素から、宇宙の大きさと驚きに、そしてその只中にいる人間の脳に。」

「私たちは、慈善活動によって世界中の科学を支援しています。米国には、社会から得たものを、奉仕や慈善活動によって社会にお返しをするという素晴らしい伝統があります。私は、この慈善活動の伝統を、アメリカの素晴らしい友人である日本でも、分かち合うことができることをとても嬉しく思います。国境を超え世界中の優秀な科学研究の支援をするために、IPMUと協力できることは光栄です。」

カブリ財団のロックウェル・ハンキン副会長とロバート・コン理事長からの手紙には次のような言葉がありました。

「フレッド（カブリ氏）は常に将来を見つめていました。科学活動が特別に重要だと考えていたのはそのためです。彼は、基礎科学がすぐに役に立つものでないことはわかっていましたが、それと同時に将来の世代がこの世界をより良いものにするには科学の発見が必要であることも知っていました。」

「フレッド（カブリ氏）は、自らの最も大きな遺産は、このような科学者のコミュニティーから生み出される研究成果であり、それが人類に幸福をもたらすことだと考えていました。」

カブリ氏は、科学の発展を助けることで、世界をより豊かなものにしようと努力してこられました。私たちは彼の遺志を引き継いで、さらに研究に精進していきます。